

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	令和 3 年 6 月 24 日
-------	-----------------

市所管部署	石巻市 産業部観光課
-------	------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人 慶長遣欧使節船協会
法人所在地	石巻市 渡波字大森 30 番地 2
設立年月日	平成 4 年 1 月 22 日
代表者職・氏名	代表理事 一力 雅彦

設立目的・経過	慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供することにより、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与すること。
---------	---

3 定款上の事業内容

- (1) 慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究
- (2) 慶長遣欧使節に関する資料の収集・展示
- (3) 船舶及び海洋に関する資料の収集・展示
- (4) 海事思想の普及・啓蒙
- (5) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産 総額	石巻市 出資・出捐額	石巻市 出資・出捐割合	市以外の 出資・出捐者	市以外の者の 出資・出捐額	市以外の者の 出資・出捐割合
1,000,000 千円	500,000 千円	50.0 %	宮城県	500,000 千円	50.0 %
				千円	0.0 %
				千円	0.0 %

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H30期末	R1期末	R2期末
常勤	0	0	0
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	0
非常勤	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	1	1	1
計	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	1	1	1

(2) 職員

	H30期末	R1期末	R2期末
常勤	9	10	10
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
非常勤	9	8	9
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	1
計	18	18	19
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	2

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供する事より、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与する事を目的とする。

- ①慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究
- ②慶長遣欧使節に関する資料の収集・展示
- ③船舶及び海洋に関する資料の収集・展示
- ④海事思想の普及・啓蒙
- ⑤宮城県の指定を受けて行う慶長遣欧使節船ミュージアムの管理運営
- ⑥石巻市の指定を受けて行うサン・ファン・パウティスタパークの管理運営
- ⑦その他この法人の目的を達成するために必要な事項

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		令和元年度期	令和2年度期	令和3年度期	令和4年度期	令和5年度期
慶長遣欧使節船ミュージアム入館料	円	目標計画	7,220,000	7,220,000	5,350,000	1,980,000	0
		実績	6,680,050	5,383,400			
目標・指標の説明		復元船の乗船見学中止(H28～)や新型コロナウイルス蔓延の影響により、閉館や各事業の中止を余儀なくされたが、入館者確保のため、VRコンテンツの上映やライトアップ、また、慶長遣欧使節帰国400年記念式典・シンポジウム・出帆記念イベントなどを開催し、事業の充実に努めた。なお、令和6年度にはリニューアルオープンを予定しており、これに向けた準備期間として令和4年10月から令和5年度末までは休館となる。					
目標未達の場合の要因分析		新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による休館と事業中止等により来館者が減少した。					

目標項目・指標	単位		令和元年度期	令和2年度期	令和3年度期	令和4年度期	令和5年度期
慶長遣欧使節船ミュージアム入館者	人	目標計画	32,000	35,000	30,000	9,000	0
		実績	31,188	27,291			
目標・指標の説明		復元船の乗船見学中止(H28～)や新型コロナウイルス蔓延の影響により、閉館や各事業の中止を余儀なくされたが、入館者確保のため、VRコンテンツの上映やライトアップ、また、慶長遣欧使節帰国400年記念式典・シンポジウム・出帆記念イベントなどを開催し、事業の充実に努めた。なお、令和6年度にはリニューアルオープンを予定しており、これに向けた準備期間として令和4年10月から令和5年度末までは休館となる。					
目標未達の場合の要因分析		新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による休館と事業中止等により来館者が減少した。					

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①サン・ファン祭り ②サン・ファン・イルミネーション ③出帆記念イベント ④市民団体による各種イベントの実施	①コロナ禍により中止した。 ②11月から翌年1月末までの夜間来場者数18,344人、また、夜間特別開館では、6日間の来館者数3,172人 ③慶長遣欧使節帰国400年記念として出帆祭を開催し、伊達武将隊や伝統芸能の演舞、復元船建造の記録等の映写などを実施した。来館者数2,062人 ④石巻青年会議所によりイベント「エコキャップアート制作・展示」が開催された。	サン・ファン祭りはコロナの影響で中止となったが、復元船展示の最終年度として実施したイルミネーションや出帆記念イベントなどの事業の拡充に努めるとともに、多くの来場者に対して慶長遣欧使節の意義とサンファンバウティスタ号のPRに努めた。	①市民団体手作りのサン・ファン祭りに約12,000人來場 ②11月から翌年初まで復元船とサンファンパークのイルミネーションとライトアップを実施した。夜間特別開館に487人來館 ③落語やお笑いショー、時代の遊びなど参加型の出帆記念イベントに1,503人参加 ④恒例となった「渡波市民夏祭り」や「石恋まつり」など市民参加型のイベントが開催された。
事業の公共性、公益性	平成28年度から復元船の老朽化等に伴い乗船見学を禁止したことにより施設の展示内容が大幅に減少したことから、展望棟ロビーを活用した展示拡充や隣接するサン・ファン・バウティスタパークでの各種イベント事業により集客を図るとともにPRに努めた。		

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①慶長遣欧使節帰国400年記念式典・シンポジウム等開催 ②企画展開催 ③館長歴史講座開催 ④絵画コンクール開催 ⑤体験学習の開催	①慶長遣欧使節帰国400年記念事業として式典及びシンポジウムを開催し、サンファン賛歌の演奏や朗読、「慶長遣欧使節の世界」をテーマにしたパネルディスカッションなどを行った。 ②「帆船模型から見る世界の船～Around The World～」を4月から8月まで開催し、様々な国の帆船模型を紹介した。 ③コロナ禍により中止した。 ④慶長遣欧使節帰国400年を記念し絵画・デザインマーク・作文部門の計3部門のコンクールを開催した。応募総数178点 ⑤コロナ禍により中止した。	例年開催している歴史講座や体験学習などコロナの影響で中止となった事業があったが、慶長遣欧使節帰国400年記念事業やシンポジウムにおける慶長遣欧使節に関わる講演、企画展における帆船模型の紹介などを行い、慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する展示をはじめ普及・啓蒙に努めるとともに、多くの方々に対して慶長遣欧使節の意義とサンファンバウティスタ号のPRに努めた。	①帆船海王丸第35代船長齋藤重信氏を招き記念講演等を開催した。参加者約70名 ②サン・ファン号に関する歴史や技術に関する展示を行った。 ③濱田館長が6回シリーズで歴史講座を開催した。参加者計175名 ④絵画教室と連携した絵画コンクールを開催した。応募総数73点 ⑤親子を対象に「帆船づくり体験」に30名の児童が参加し帆船模型を製作した。
事業の公共性、公益性	慶長遣欧使節の派遣目的が我が国初の外交使節であるとの史実に加え、使節派遣の2年前に仙台藩を襲った「慶長の天津波」からの復興もその要因の一つではないかと考えられることから、その慶長遣欧使節の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する調査研究・収集・展示を行うとともに海事思想の普及・啓蒙に努めた。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表）

団体名称	公益財団法人 慶長遣欧使節船協会
------	------------------

1 財務諸表（金額単位：円）

貸借対照表（B/S）	借方（科目）	平成30年度期	令和元年度期	前期増減	令和2年度期	前期増減
	流動資産		117,535,836	99,357,611	▲ 18,178,225	105,808,405
うち 現金・預金		115,578,903	97,390,417	▲ 18,188,486	92,660,818	▲ 4,729,599
固定資産		1,164,487,073	1,141,645,340	▲ 22,841,733	1,135,960,973	▲ 5,684,367
(1) 基本財産		1,157,908,700	1,136,987,700	▲ 20,921,000	1,128,437,794	▲ 8,549,906
(2) 特定資産		0	0	0	0	0
(3) その他の固定資産		6,578,373	4,657,640	▲ 1,920,733	7,523,179	2,865,539
資産の合計		1,282,022,909	1,241,002,951	▲ 41,019,958	1,241,769,378	766,427
貸方（科目）	平成30年度期	令和元年度期	前期増減	令和2年度期	前期増減	
流動負債		28,624,957	10,290,966	▲ 18,333,991	21,451,729	11,160,763
うち 短期借入金		0	0	0	0	0
固定負債		0	0	0	0	0
うち 長期借入金		0	0	0	0	0
負債合計		28,624,957	10,290,966	▲ 18,333,991	21,451,729	11,160,763
正味財産		1,253,397,952	1,230,711,985	▲ 22,685,967	1,220,317,649	▲ 10,394,336
指定正味財産		1,157,908,700	1,136,987,700	▲ 20,921,000	1,128,437,794	▲ 8,549,906
うち 基本財産への充当額		1,157,908,700	1,136,987,700	▲ 20,921,000	1,128,437,794	▲ 8,549,906
うち 特定資産への充当額		0	0	0	0	0
一般正味財産		95,489,252	93,724,285	▲ 1,764,967	91,879,855	▲ 1,844,430
うち 基本財産への充当額		0	0	0	0	0
うち 特定資産への充当額		0	0	0	0	0
負債・正味財産の合計		1,282,022,909	1,241,002,951	▲ 41,019,958	1,241,769,378	766,427

正味財産増減計算書	科目	平成30年度期	令和元年度期	前期増減	令和2年度期	前期増減
	一般正味財産増減の部		▲ 6,817,566	▲ 1,764,967	5,052,599	▲ 1,844,430
経常増減の部		▲ 6,745,547	▲ 1,692,967	5,052,580	▲ 1,772,430	▲ 79,463
経常収益		205,599,622	204,442,028	▲ 1,157,594	217,787,355	13,345,327
経常費用		212,345,169	206,134,995	▲ 6,210,174	219,631,291	13,496,296
評価損益等計		0	0	0	71,506	71,506
経常外増減の部		▲ 72,019	▲ 72,000	19	▲ 72,000	0
経常外収益		0	0	0	0	0
経常外費用		72,019	72,000	▲ 19	72,000	0
一般正味財産期首残高		102,306,818	95,489,252	▲ 6,817,566	93,724,285	▲ 1,764,967
一般正味財産期末残高		95,489,252	93,724,285	▲ 1,764,967	91,879,855	▲ 1,844,430
指定正味財産増減の部		20,134,000	▲ 20,921,000	▲ 41,055,000	▲ 8,549,906	12,371,094
指定正味財産増減額		20,134,000	▲ 20,921,000	▲ 41,055,000	▲ 8,549,906	12,371,094
指定正味財産期首残高		1,137,774,700	1,157,908,700	20,134,000	1,136,987,700	▲ 20,921,000
指定正味財産期末残高		1,157,908,700	1,136,987,700	▲ 20,921,000	1,128,437,794	▲ 8,549,906
正味財産期末残高		1,253,397,952	1,230,711,985	▲ 22,685,967	1,220,317,649	▲ 10,394,336

（※）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。
 ※財務諸表を添付すること。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表）

	区分	平成30年度期	令和元年度期	前期増減	令和2年度期	前期増減
キャッシュ・フロー計算書（C/S）	事業活動によるキャッシュ・フロー	20,306,597	▲ 29,004,643	▲ 49,311,240	40,674,350	69,678,993
	当期一般正味財産増減額	▲ 6,745,566	▲ 1,692,967	5,052,599	▲ 1,772,430	▲ 79,463
	キャッシュフローへの調整額	6,918,163	▲ 6,390,676	▲ 13,308,839	50,925,180	57,315,856
	指定正味財産増加収入	20,134,000	▲ 20,921,000	▲ 41,055,000	▲ 8,478,400	12,442,600
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 12,638,287	10,816,157	23,454,444	▲ 45,403,949	▲ 56,220,106
	投資活動収入	12,260	10,836,607	10,824,347	4,403,783	▲ 6,432,824
	投資活動支出	▲ 12,650,547	▲ 20,450	12,630,097	▲ 49,807,732	▲ 49,787,282
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
	財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	0	0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
			0		0	
			0		0	
			0		0	
現金及び現金同等物に係る換算差額			0		0	
現金及び現金同等物の増減額	7,668,310	▲ 18,188,486	▲ 25,856,796	▲ 4,729,599	13,458,887	
現金及び現金同等物期首残高	107,910,593	115,578,903	7,668,310	97,390,417	▲ 18,188,486	
現金及び現金同等物期末残高	115,578,903	97,390,417	▲ 18,188,486	92,660,818	▲ 4,729,599	

（※1）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

2 市による財政・金融支援等（金額単位：円）

	区分	平成30年度期	令和元年度期	前期増減	令和2年度期	前期増減
	補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
	事業費補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
	管理費補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
	委託料及び指定管理料	39,517,352	39,543,450	26,098	39,455,163	▲ 88,287
	借入金（期末残高）	0	0	0	0	0
	短期借入金	0	0	0	0	0
	長期借入金	0	0	0	0	0
	出資・出捐（期末時）			0		0
	債務保証額（期末残高）			0		0
	損失補償額（期末残高）			0		0
	その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）			0		0
				0		0

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。
 ※財務諸表を添付すること。

情報公開シートⅡ補足資料

法人名：公益財団法人 慶長遣欧使節船協会

1 貸借対照表に関する補足

(1) 総括分析

投資有価証券の期末時価の減額と、定期預金を解約し新たに投資有価証券を購入したことにより基本財産は変動している。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容 (単位：円)	変動要因
流動資産	未収金 11,704,936増	県指定管理料等増額分の支払いが今期になされなかったことにより増加
固定資産	基本財産 8,549,906減	定期預金を解約し、新たに国債を購入したが、評価額が減少したことと、その経過利息の支払いにより減少
流動負債	未払金 11,032,646増	復元船記録誌・記念誌の作成・協会記念碑等の支払いが今期となったことにより増加

2 損益計算書又は正味財産増減計算書に関する補足

(1) 総括分析

当初、現復元船展示の最終年度であり、また、慶長遣欧使節帰国400年記念ということもあり、例年以上の来館者を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による閉館やGWイベント等が中止となり4月、5月の来館者は大幅に減少した。緊急事態宣言解除後から徐々に来館者を取り戻したが、最終的に来館者数27,291人前年度比12.5%の減、入館者利用料金で前年度比19.4%の減額となった。その中、慶長遣欧使節帰国400年記念式典・シンポジウム・レセプションの開催や例年開催している絵画コンクール・出帆記念イベント・イルミネーションを拡充して開催し、また、復元船の記念誌・記録誌・記念碑の作成などの事業を行ったことに伴い、管理費の印刷製本費や委託費が増加している。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容 (単位：円)	変動要因
経常収益	宮城県受託金 9,491,220増	宮城県より記念事業関係業務及び復元船記録誌作成業務を受託したことにより増加
経常費用	使用料及び賃借料 1,606,059増	コロナ対策のカメラ等のレンタルにより増加
	委託費 7,072,595増	レセプション開催関係業務の委託により増加
	印刷製本費 5,974,184増	復元船記念誌等の作成により増加

情報公開シートⅡ 補足資料

3 キャッシュフロー計算書に関する補足

(1) 総括分析

現復元船展示の最終年度と慶長遣欧使節帰国400年記念ということもあり、例年より事業を派手に行った。また、定期預金を解約し、新たな国債の購入と、協会30周年記念碑の作成を行った。以上のことから、令和2年度は特別な年であったため、金額が例年より大きくなった。来年度以降は例年と同等かそれ以下になると思われる。

(2) 数値が変動した区分及びその要因

	項 目	変動内容 (単位：円)	変動要因
事業活動によるキャッシュフロー	キャッシュフローへの調整額	57,315,856増	帰国400年事業と復元船記録誌・記念誌・協会30周年記念等での未払金が増加
	指定正味財産増加収入	12,442,600増	前期に比べ国債評価額の減少幅が少なかったことにより、前期比で増加
投資活動によるキャッシュフロー	投資活動収入	6,482,824減	前期に比べ売却収入が少なかったことにより、前期比で減少
	投資活動支出	49,787,282増	国債を購入し、公益目的事業会計に振替えたこと等により増加

4 市による財政・金融支援等に関する補足

(1) 市からの補助金等の交付状況

補助金等の名称	補助金額(単位：円)	補助金の使途

(2) 市からの委託業務等（指定管理含む）の状況

委託業務の名称	委託料(単位：円)	委託業務の内容
指定管理料	39,455,163	サン・ファン・バウティスタパーク管理運営

(3) 税、使用料、手数料等の減免の状況

減免されている税目等名称	減免額(単位：円)	減免理由

市が期待する役割・市意見等（別紙）

法人名：公益財団法人慶長遣欧使節船協会

担当部署名：産業部観光課

1 第三セクター情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）に対する意見

（1）中間的な経営目的・事業計画

平成25年11月3日に再開館したが、平成28年3月より、復元船の老朽化のため乗船見学が中止となり、令和3年3月31日で現復元船の公開を終了した。
また昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響等もあり、一時閉館や事業中止もあったことや、サン・ファンミュージアム改修工事により、令和4年秋ごろから、令和5年度末まで閉館となることを考慮したうえで、令和2年度の入館者数・売上高をベースとし、中期的な視点で事業計画及び目標数値を定められたと考える。

（2）主要事業の成果、課題

今後も、宮城県慶長使節船ミュージアムと合わせて石巻市サン・ファン・バウティスタパークを活用し、相乗効果で来館者数の増加に期待したい。
また、復元船の公開中止及びミュージアムの改修工事等により、集客面での課題はあるが、進水27周年記念イベントの開催、スマホWEBサイトの充実、VRコンテンツの制作等により、観光客の利用促進を図っている。

2 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表）に対する意見

（1）貸借対照表

国債の購入や投資有価証券の時価の減額等により金額の増減がみられるが問題はないと思われる。

(2) 損益計算書又は正味財産増減計算書

宮城県より受託した400年記念事業業務の受託金として収入が増加したものの、新型コロナウイルス対策やミュージアム事業等により経費の増加も見られ、全体の正味財産期末残高は10,394千円ほど減額しているが、特に問題はないと思われる。

(3) キャッシュフロー計算書

慶長遣欧使節帰国400年事業や協会設立30周年の記念碑作成等の影響により、キャッシュフローへの調整額が増額しているほか、定期預金を解約し、新たに国債を購入したことから指定正味財産収入が増加しているが、特に問題はないと考えられる。

(4) 市による財政・金融支援等

石巻市サン・ファン・パウティスタパーク指定管理料として支出している金額であり、今後も年度協定で定められた指定管理料において適正かつ効果的・効率的な運営に努められたい。

3 法人に対し市が期待する役割等（担当部署所感）

慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的事績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供し、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与する目的を果たす上においても、市民が参加しやすい企画・イベント等の創意工夫を重ね、ひいては入館者数の増加につながるよう期待したい。

また、現サン・ファン・パウティスタ復元船の解体及び1/4スケール復元船の作成、ミュージアムの改修事業完了後は、各関係団体と積極的に連携を図りながら、地域の振興に資する各種事業を実施し、歴史・文化・国際交流の観点から、更なる観光客の誘致を図り、地域の振興に寄与することを期待する。